

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

Taki Plazaを活用した学生主体イベントによる 外国人留学生と日本人学生との交流活動をさらに活性化

国際交流施設Taki Plazaでは、留学生交流に主眼を置く学生団体が、“食”から互いの文化を知りたいことを意図し、手巻き寿司やたこ焼きを作る交流イベントを開催しました。また、Taki Plazaの活用を学生目線で考える団体、Taki Plaza Gardenerも活動をさらに活性化させ、「若葉祭」、Taki Bar、わくわくハンバーグなど、様々な企画を打ち出しました。学生支援課や学生支援センターが主催するイベントのみでなく、学生主体となった活動が増え、ブランドコンセプトに即した留学生との交流の場としてのTaki Plazaが定着し始めています。



花をイメージして飾り付けられたTaki Plaza内

ガバナンス改革関連

女性専用のリフレッシュスペースを新設

ダイバーシティ&インクルージョン推進に向けた取り組みの一環である「女性活躍環境改善モデルプロジェクト」として、大岡山キャンパス本館に女性専用のリフレッシュスペースを新設し女子学生、女性教職員が授業の合間や昼休みなどに活用できる環境を整えました。また、「東京工業大学SOGIガイドライン 性の多様性に関する基本方針」を作成し、全構成員に周知することで、学生・教職員が性の多様性やその対応について理解を深め、それぞれの行動の指針として活用されることが期待されます。



女性活躍環境改善モデルプロジェクトのワーキングメンバー

教育改革関連

B2Dスキームを継続して推進

※「B2D」とは…学士(Bachelor)2年生から博士(Doctor)取得／進学を目指す学生のための本学独自の用語です。「早く研究を始めたい！」という学生の声を受け、令和2年度から「B2Dスキーム」の特別選抜を開始しました。令和5年度は、学士課程2年次生が新たに8名参加し、履修生数は、学士課程33名、修士課程19名、博士後期課程1名までの6学年に渡り、総勢53名のB2Dスキーム学生が在籍しています。なお、令和5年度に修士課程に進学した学生は12名おり、このうち学士課程を3年で早期卒業して4月に進学した学生が2名、3.5年で早期卒業して9月に進学した学生が5名でした。今後も「B2Dスキーム」の推進を続けていきます。

学生が学修ポートフォリオ上で「国際経験」を登録・申請し、教員が認定できるシステムを構築

平成28年度から学修ポートフォリオシステムを導入し、学生が目標や強み・弱み、学修計画と振り返り、留学や資格取得実績等の入力に加え、科目の申告と成績状況、学生が身につける力の状況を確認できる仕組みを整えてきました。令和5年度には、システム改修を行い、学生が学修ポートフォリオ上で「国際経験」を登録・申請し、教員がそれを認定できるシステムを構築しました。本学では独自のガイドラインに基づき、留学その他の国際的な活動を通じて、原則すべての学生が修士課程修了までに「国際経験」を得ることを推奨しており、このシステムによって個々の学生の活動を可視化するとともに、学生全体の傾向を把握することにもつながっています。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

スーパーグローバル大学創成支援事業外部評価の実施と事業終了後の自走化検討

本事業終了後の令和6年度に実施予定のSGU外部評価に向けて、これまでの本学の取組の振り返りを進めています。外部評価では、学外有識者からこれまでの取組を評価いただくとともに、自走化に向けた助言もいただくこととしています。また、これまでの取組のうち効果的であったものについては事業終了後も継続させていくため、取組の振り返りを行い、継続が望まれるものについては経費の内在化に向けた検討を進めるなど、事業終了後の自走化に向けた検討を加速させました。

Tokyo Techアドバイザリーボード(TTAB)を開催

本学では、国際的な知見に基づいたアドバイスを得るため、海外有力大学の学長等から成る「Tokyo Techアドバイザリーボード(TTAB)」を設置しています。令和5年度は、令和6年2月に第6回TTABを開催しました。TTABでは、世界トップレベルの大学としてのマネジメント体制構築などについてボードメンバーから建設的な助言をいただきました。

アーヘン工科大学との第5回ジョイントワークショップを実施

令和5年11月にSpace & Aerospace Technologiesをテーマとし、アーヘン工科大学とのジョイントワークショップをアーヘン工科大学で開催しました。両大学ともに国のプロジェクトに参加する等、この分野では先端を走っています。最先端技術や国プロの紹介、また、将来の宇宙開発につながるような夢のある話も披露され、ワクワクするようなワークショップとなりました。また、令和6年2月には、東京医科歯科大学との3校によるジョイントワークショップを開催しました。「Novel materials and AI-based methods for healthcare applications」をテーマとし、終日、熱のこもった議論を行いました。本学と東京医科歯科大学の統合に関しては、アーヘン工科大学も大変注目しており、今後は医工連携に関する情報交流がますます増えていくものと思われま

【海外の大学との連携の実績】

インペリアルカレッジロンドンとの博士後期課程学生交流プログラム実施

令和5年度9月18日～22日に、英国インペリアル・カレッジ・ロンドン(以下、インペリアル)の博士後期課程学生と本学専門分野の垣根を越えて世界規模の課題について考える5日間の合宿型国際交流プログラム(Imperial-Tokyo Tech Global Fellows Programme 2023)を、国立オリンピック記念青少年総合センター及び東工大岡山キャンパスで実施しました。本学とインペリアルから15名ずつ選抜された、計30名の博士後期課程学生が集い、異なるバックグラウンドを持つ者同士がチームとして協働することの楽しさや難しさを見出した充実した5日間となりました。



各チームの最終プレゼンテーション

マサチューセッツ工科大学とのオンライン語学タンドム開催

本学のグローバル理工人育成コースは、米国マサチューセッツ工科大学の日本語クラスおよびジャパンプログラム(MITジャパン)と共同で、双方の学生がペアを組んで日本語と英語を学び合う国際交流プログラム「語学タンドム」をオンラインで開催しました。コロナ禍が始まった令和2年に両校の交流を維持する目的で開始されたこのプログラムは、コロナ禍が終了後も継続し、4回目の開催となりました。5月から7月にかけて約2か月間行い、東工大、MITよりそれぞれ16名の学生が参加しました。

カリフォルニア大学バークレー校日本研究センターとジョイントコロキウムを開催

令和5年9月にカリフォルニア大学バークレー校日本研究センターとジョイントコロキウムが開催され、リベラルアーツ研究教育院の教員が日本の学校改革について講演を行いました。コロキウムは本学の海外拠点の一つであるANNEX Berkeley開設以来、定期的に行っていますが、今回初めて対面での開催(オンライン併用)となり、現地で活発な議論が交わされました。

■ 自由記述欄

ASPIREフォーラム 2023 開催

本学が提唱し事務局を務める、科学技術の発展と人材の開発を通してアジアにおけるイノベーションのハブを形成することを目的としたASPIREリーグ(清華大学(中国)、香港科技大学(中国)、南洋理工大学(シンガポール)、韓国科学技術院(韓国)、本学)の年次総会である「ASPIREフォーラム」がKAIST(韓国科学技術院)主催により令和5年7月2日から4日まで韓国・デジョンのKAISTメインキャンパスで4年ぶりに対面で開催されました。学生ワークショップは、6月28日から30日まではオンライン開催、後半の7月2日から4日はKAISTにて対面開催という形をとりました。各加盟大学から合計22名の大学院生が参加し、5つのグループに分かれてグループワークを行い、最終日にプレゼンテーションを行う発表会が開催されました。



ASPIREフォーラム参加者のグループフォト